

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第4講座】

開催日 2022年7月9日（土）

● 時 間 9:30～16:30

● 場 所 I-PEX キャンパス（小郡市小郡2409番地1）
小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

● 参加者

■第1期生13名（欠席3名）

■木村 貴志 塾長 / 森 就子（事務局） / 井上 和樹（事務局） / 西山 茂代（事務局）

■I-PEX 株式会社：執行役員 総務統括部 統括部長 齊藤 貢二 様 / 人事部部長 末次 博文 様
総務部総務課 課長代理 岡田 雅之 様 / 総務部総務課 主任 松尾 佳奈 様



● 内 容 第1回企業訪問（I-PEX 株式会社）・座学

- 9:30～9:40 出欠確認・企業訪問にあたっての連絡事項
- 10:05～11:45 I-PEX キャンパス見学
- 12:00～13:00 昼食（生涯学習センター内カフェにてカレー）
- 13:00～14:40 第1回企業訪問の振り返り
- 14:50～16:30 座学（人材育成の必要性・『論語』『孔子』について）

■ I-PEX キャンパス内見学

○会社概要の説明

- ・会社名の意味・・・グローバル市場で閃きや驚きという価値を提供する
「ものづくりソリューションエキスパート」
- ・仕事の内容・・・コネクタ・センサー等の部品の設計・開発・製造
（全世界で60%のシェアを誇る部品もある。）
- ・国内・海外の拠点・・・国内・海外に多くの拠点があり、従業員は約6,600人。
その多くが福岡におり、その中でも小郡に技術者が集まっている。小郡から世界に製品が羽ばたいている。
- ・国際認証の取得・・・国内外の拠点で、世界標準となるISO9001（製品）、ISO14001（環境）、ISO45001（労働/安全）を取得



○キャンパス内見学（1F・2F・3F・体育館）

- ・講義室・・・建物内に3つある。新しいものを生み出していくためには仕事をしながら勉強していく必要がある。
- ・執務室・・・ABW（アクティビティ・ベースド・ワーキング）の考え
「時間」と「場所」に縛られない職場環境を整備
仕事の仕方によって、場所を変えられる。
お菓子・飲み物自販機は建物内に6カ所。従業員が買い物に行く時間のロスを減らす。
社長室はない。（いつも会議等で空であり、あっても無駄なため）
書類等はなく、全てデータ化。AIを活用し、事務作業を効率化。
- ・プレイヤールーム・・・I-PEXにはいろいろな国の人がいる。宗教上決まった時間にお祈りをする必要がある人のため設置。仕事とは関係ないが、宗教・習慣の違いを認めることは大事。
- ・体育館・・・27クラブが活動。ここも仕事とは関係ないが、人と人とのつながり、コミュニケーションを大事にしている。



○工場見学

- ・本工場では部品製造の金型の製造・技術の習得を実施。
I-PEXの部品製作の拠点となっている。広さは6,600㎡
- ・金型製造には1/1000mmの精度が必要。金型製造はプログラムにより加工するものもある。新規採用職員の技術取得施設もある。



○講話（齊藤 様）

- ・グループ理念・・・最・尖端を、世界へ。（時代のニーズの一步先を行く）
- ・理念達成のためには、従業員のやる気だけでなく、人材育成プログラムが重要。
⇒22歳～65歳までずっと教育する。社長も教育する。
- ・会社として大事にしていること
 - ①世の中になかったモノ、誰も作れなかったモノを実現
 - ②ずっと勉強し続ける
 - ③人との繋がりを大事にする
 - ④今に満足せず、挑戦し続け、チームプレイで目標を達成
 - ⑤ルールを守り、嘘をつかない
 - ⑥自然環境を守る

○質疑応答

質問：どういう人を採用しますか？

回答：本人の希望によります。（大卒新人採用は全体の10%程）

モノづくりの会社なので、モノづくりが好きな人、そういった技術をやってみたい人を採用します。

質問：小郡キャンパスで製品の開発を集約しているとのことですが、海外拠点では何をしていますのですか。

回答：上海では開発を行っています。その他の拠点は、開発したものの量産工場になります。

○最後に

- ・子供の時の経験、疑問に思ったことは大人になっても忘れない。何とかしようとする気持ちが原動力になる。本日のように、見て・聞くチャンスがあるのはとてもいいこと。（齊藤様）
- ・日常生活での疑問の蓄積が、大人になってから発揮されていくと思います。（末次様）

■ 第1回企業訪問の振り返り

○企業訪問の塾生感想

- ・仕事をするスペースやデータ化など、社員が働きやすい環境が整っている。
- ・環境のこととかを考えて行動しているのがすごい。
- ・自社で部品製造に必要な機械や金型を作っていることに驚いた。
- ・ロビーにいたロボットがかわいかった。

【塾長より】思ったよりも質問が少なく、少し残念だった。自ら取りに行く姿勢が大事。



○映像資料（I-PEX）（Amazon）視聴

【塾長より】世界で成功する企業は、一つ一つの仕事の精度が高い。いい加減にしていない。また、人に対して優しい。これらは、日頃の生活習慣が大事になってくる。

○企業訪問・経営者講話から

- ・学ぶべきことが多い。興味があることを探す。
- ・時代の変化を見据え、自分の強みを磨き、チャレンジ（受け身ではだめ）
- ・目的意識を持つ。そのために考える。自分と向き合う。
- ・個の確立。「習慣は第2の天性を為す」習慣とは、生活習慣と心の習慣のこと。

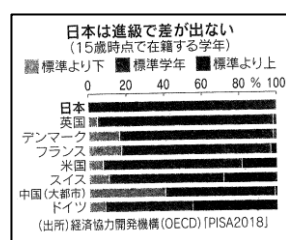
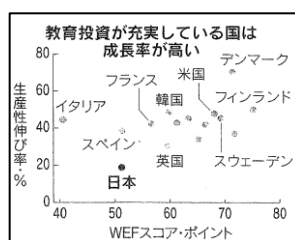
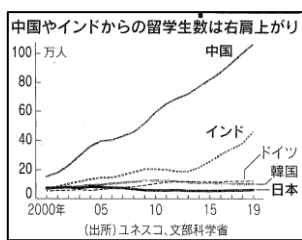
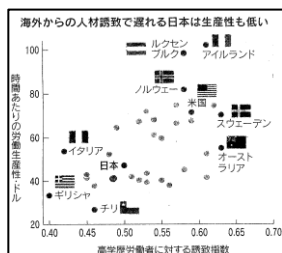
○ロジックツリー・レポート作成

- ・他の人が書いたレポートを書きうつし、いい文体・表現方法を感覚的につかむ。

■座学（人材育成の必要性・『論語』『孔子』について）

○新聞記事より（日本経済新聞 2022年7月5日～8日『成長の未来図 知で越える』）

- ・高学歴労働者に対する誘致指数において、日本は下位となっている。
- ・海外への留学生は中国・インドが7倍、韓国が1.5倍に増える中、日本は同期間に2割減少
- ・労働者の能力を高めるリスク（学び直し）が各国で活況だが、日本は周回遅れ
- ・日本の形式的な平等は、人材育成の仕組みを硬直的にしている可能性がある。



【塾長より】

このような新聞記事に触れる機会はなかなかないと思う。読むだけでは難しい部分もあるかと思うが、日本における人材育成について考えるきっかけとなる。皆さんにだけがんばれというつもりはなく、私も人材育成をよりがんばろうと思う。

○『論語』・・・塾長の後に続いて朗読する（3回）

- ・昔の人々が学んでいた四書五経は、修己治人の学である。
- ・修己とは、「修身」「齐家」「治国」「平天下」であり、世界を治めるには、それを構成する国の安定が必要であり、国の安定には、家の安定が必要であり、家の安定には個々人が立派である必要がある。
- 世界を立派にするためには、個々人が立派にならないといけない。
- これが経世済民の教えであり、これから「経済」という言葉が生まれている。



○『孔子』・・・年表

- ・孔子が生きた時代というのは、春秋時代という戦乱の時代であった。このような時代に学問で生きていくということは、すなわち「修己治人の学」を行うということ。つまりは、「平天下」を目指すことであり、政治をすることと同じことであった。そのような背景を踏まえ、『論語』に書かれている一つ一つの重みと深さを感じてほしい。

当日の様子



■7月9日は木村塾長の60回目の誕生日でした。

塾生のみなさんと加地市長とで、サプライズのお祝いをしました。

